

家康を支えた徳川家臣団と群馬の城

静岡大学名誉教授・文学博士
（公財）日本城郭協会理事長
小和田 哲男

はじめに

1. 天正18年（1590）家康の関東入部と家臣団の城

上野国に封ぜられた家臣たち

箕輪城	井伊直政	高崎市箕郷町西明屋・東明屋
総社城	諏訪頼忠	前橋市総社町植野
厩橋城	平岩親吉	前橋市大手町
大胡城	牧野康成	前橋市河原浜町
館林城	榊原康政	館林市城町
藤岡城	松平康寛	藤岡市藤岡
浄法寺城	長井信実	藤岡市浄法寺
国峯城	藤田信吉	甘楽郡甘楽町国峯（峰）
宮崎城	奥平信昌	富岡市宮崎
豊岡城	禰津信直	高崎市下豊岡町
三ノ倉城	松平近正	高崎市倉渕町三ノ倉
白井城	本多広孝	渋川市白井
沼田城	真田信幸	沼田市西倉内町

箕輪城の縄張



箕輪城要図

4. 榊原康政の館林城

榊原康政の系譜

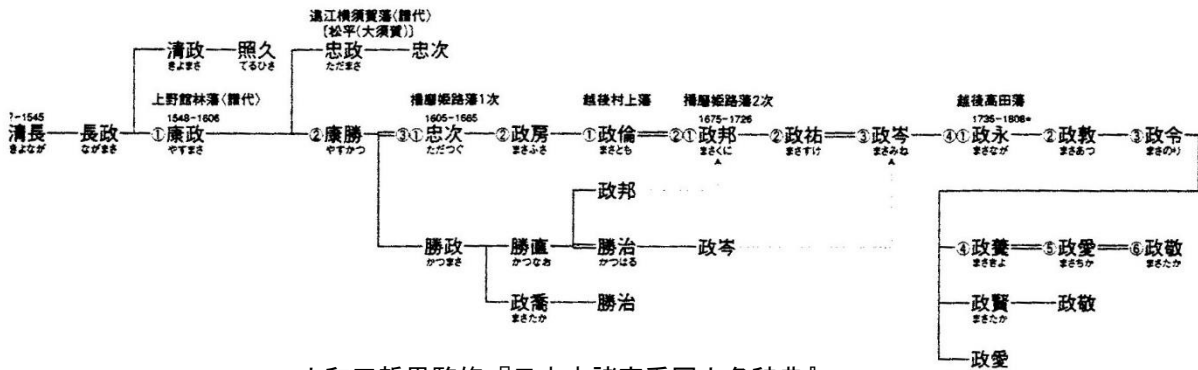
榊原氏 さかきばらし

近世の大名(譜代)。南北朝時代の武将で伊勢(三重県)守護の仁木義長(まよぶ)6代の孫利長が、一志(愛知県)郡榊原村(三重県久居市)に住し、榊原氏を称した。利長の孫清長のとき三河(愛知県)にうつって松平氏につかえ、その孫康政は永禄3年(1560)の桶狭間(愛知県)の戦い直後、岡崎城に帰還した徳川家康の小姓にとりたてられた。以来、家康につかえ、本多忠勝とともに「旗本先手役」として活躍した。

天正18年(1590)家康が関東に移封されると、康政は上野(群馬県)館林(10万石)に封ぜられ、康政死後は3男の康勝がついだ。慶長20年(1615)康勝が没したとき嗣子がなかったため、康政の長男で遠江(静岡県)横須賀藩大須賀氏をついでいた忠政の子忠次が、家康の命で横須賀藩を返上し、館林の榊原氏をつぐことになった。子孫は陸奥(福島県)、播磨(兵庫県)姫路、越後(新潟県)村上などをへて、寛保元年(1741)越後高田(15万石)にうつり、幕末までつづいた。(小和田哲男)

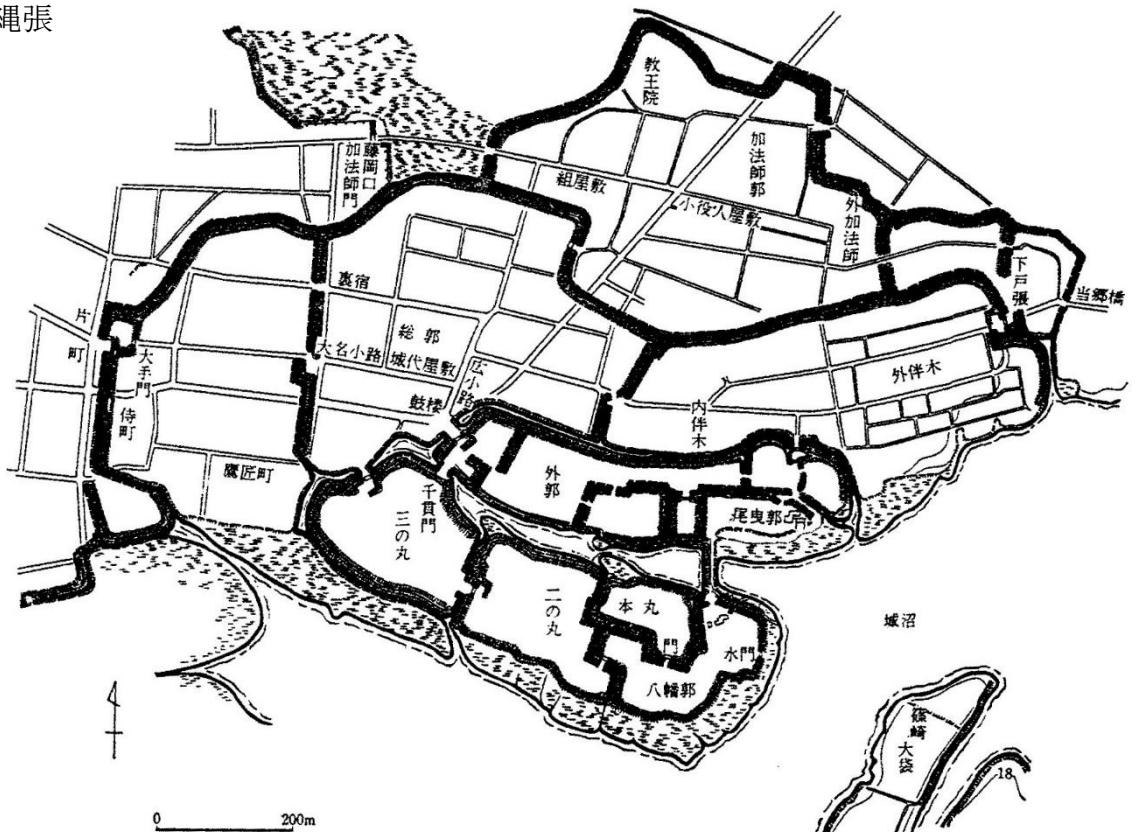


榊原氏家紋



小和田哲男監修『日本史諸家系図人名辞典』

館林城の縄張



館林城要図

おわりに